

浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081

笠岡市笠岡2065

電話(0865)62-2623

FAX(0865)62-2595

振替01260-9-13760

http://joshinji.suki-ari.net/

久々の新春のつどい



「み法を味わって」(聖)

仏さまの心

お釈迦さまの十大弟子の一人アヌルツダ尊者は、この世でおさとりをひらき天眼（智慧の眼・透視力）を持たれました。この世に生まれる前のあるときは王として、刑罰や武器によることなく道理によって国民や周囲を治め、またあるときは天国に生まれて神でした。しかし完全なおさとりを開かれた仏さまであるお釈迦さまのお話を聞かれ、王さまになるよりも、天国に生まれ神さまであるよりも、もつともつとすばらしい大切なことがあることに気づかれました。それは真実の法を聞いて真実の自分になることです。それは自分だけでなくすべての人と共どもにしあわせになることであり、今だけでなくこれから先も永遠に、楽しくはればれと生き抜くことができるからです。

私やあなたもその真実に至る人生を強く明るく送ることができます。それは念仏にこめられた仏さまのお心と教えを聞かせていただくことによつてです。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

春季彼岸会・永代経法要

三月十九日(火) 十三時半より

ご講師 神石高原町

法泉寺 川上順之師

ごあんない

報恩講法要勤修



境内のイチヨウがほぼ散り終えた十二月二日に勤まりました。

法要は十三時半から正信偈をお勤めしました。今年も組内法中の参り合いはなく、住職と前任職が内陣出勤し、最後に住職が親鸞聖人の伝記『御伝鈔』第一段を拝読。

ご講師は福山市山手町の正圓寺、石川知全先生でした。

報恩講とは親鸞聖人の法事です。まず聖人の生涯を足早に説明いただきました。一一七三年に生まれ、数え九歳で得度、比叡山で修業した後、二十九歳で下山、法然上人の門下に入りました。越後

要なく、おごり高ぶる者は自分の生きる道に自信があるので拠り所とする教えが必要ありません。一方で、そでない者は拠り所となる教えが必要です。

やさしい仏教講座

第23回 12月6日(まとめ)

『信心とは』

今回は正信偈の「弥陀仏本願念仏、邪見憍慢悪衆生、信樂受持甚以難、難中之難無過斯」です。意味は「阿弥陀さまの以前の願い」を聞いて喜び」念仏することは、異教の見解を持つ者やおごり高ぶる者には信じたり受け入れたりすることは非常に難しく、難しいことの中でも難しいことこれ以上のも

のではない」です。

異教の見解をもつ者は自分の信じる教えがあるので他の教えは必

への流罪、関東での布教生活を経て京都へ帰り、一二六三年九十歳で往生。今から七百六十年前でした。明治時代までは聖人の実在を疑う学者もいたとのこと。

聖人がたどり着いたのは、阿弥陀さまの創られた「また会える世界」極楽浄土を信じる教えです。

これは修行によってさとりに到達するのではなく、教えを聴くことにより救いを得てゆく聴聞の仏道です。み教えを何度も聴くことで信仰を深めていく。大切なのはそれによって安心して今を生き、安心して死を迎えることです。あ

のが還る世界であり、亡くなった方々も自分の行く先も心配のいらない世界です。この世界を信じ、今を生きる力にしていけるのです。

その結果喜びが生まれ、阿弥陀さまに感謝し、感謝の念仏が口から出るのです。「念仏唱えること

によって救われる」ではありません。信じた結果、救われるのです。

この教えにたどり着くまでに、聖人は多くのお経を読んでこられました。それが世界史上最大の出版物、大蔵経です。ここには一八〇〇本近くのお経や注釈書が収められています。これを聖人は三度も読み返したとのこと。『教行信

くまでも「生きている今」に焦点を当てるのが本来の仏教です。

先生のご家族のお話など、身近な話を面白おかしく、かつ、み教えと結び付けてお話しいただき、一同大笑いしながらも、み教えに理解の深まるご縁となりました。

証』はこれらから極楽に関する記述を引用して構成したものです。

『布施の意味について』

「布施」は僧院で修行する僧侶に衣食を提供し、修行に専念してもらうことが本来の目的でした。これが今にいう「財施」です。

それに対し、僧侶は教えを信者に説くことにより救いを与えます。これが「法施」です。

さらに、僧侶が教えを説くことで、不安を和らげるなどの救いを与えることが「無畏施」です。

仏事に参列するときの包みの表書きですが、寺院に対しては「御布施」ですが、当家に対しては場面に応じて様々です。葬儀では

「御香典」「御香料」「御供」、年回法要では「御仏前」「御供」、お寺での法座では「御供」「御仏前」とします。「御霊前」は使いません。

お供えする際は、自分から見て字が読める向きに置きます。

令和6年度 行事計画

◎ 春季彼岸会・永代経	3月19日(火) 13時30分	神石高原町・法泉寺 川上順之 師
◎ ダーナバザー・花まつり	4月21日(日) 10時30分	
◎ 初参式	5月4日(祝) 10時	希望者とその家族
◎ 総会	5月18日(土) 11時	
◎ 降誕会	13時	コール清風、チャリティコンサート、上方落語
◎ 研修旅行	6月21日(金)	高知別院 ほか
◎ 法物虫ぼし法座	7月17日(水) 13時30分	芳井町・光栄寺 佐藤知水 師
◎ サマースクール	7月22日(月) 10時から21時	長谷川憲章 師
◎ お盆法要	8月14日(水) 15日(木)	住職、前住職
◎ 秋季彼岸会・永代経	9月19日(木) 13時30分	福山市神辺町・光行寺 苅屋光影 師
◎ 地区委員会	12月7日(土) 11時30分	
◎ 報恩講	13時30分	三次市・源光寺 福間玄猷 師
◎ 除夜会・修正会	12月31日(火) 23時40分	
◎ 新春のつどい	令和7年1月中旬	
◎ 春季彼岸会	令和7年3月 日時未定	講師未定
あさのおつとめ	毎朝6時	
◇ やさしい仏教講座	【25】4/10(水) 【26】6/11(火) 【27】8/24(土) 【28】10/3(木) 【29】12/12(木) 毎回19時30分 解説:住職	
◇ 境内清掃のつどい	毎月15日 13時30分より (但し1,8,9月はお休み、6,7月は7:30から)	
※「浄心寺だより」発刊	147号(5月) 148号(7月) 149号(11月) 150号(3月)	
仏教婦人会	総会 例会 各種研修会 研修旅行 料理教室 福祉施設慰問 清掃奉仕など 5/4 初参式	
文化箏同好会	毎月第1金曜日 13時30分 指導:平田澄子 先生	
女声コーラスコール清風	毎月第2土曜日 9時30分 指導:平田澄子 先生	
本山関係	千鳥ヶ淵全戦死者追悼法要 など	
備後教区	各種研修会 定例法座(毎月11日) 報恩講(11/30) 総代研修会	
備中里組	同朋研修協議会 5/24 慶讃法要など	

家族そろってお聴聞

—— み教えは日々の生活のよりどころ ——

門信徒の広場

地区委員さん登場



向吉浜中地区
三宅 長期 さん

向吉浜中地区は、備南街道（通称、農免道路）に接した金浦中学校北側の山裾の地域です。

地区委員は先代から引き継がれ、長年、同地区5戸を担当していただいています。65歳で退職後約20年近く過ぎますが、現役

の35年間はJFE構内を運行する鉄道の運転手をされ、鋼材や製品等の運搬に従事されたとのこと。

令和元年に仏教婦人部の役員として活躍された奥様が逝去。今は息子さんとの二人暮らしです。

今後の目標としては、地域の方々とコミュニケーションを図りながら地域を盛り上げ、穏やかな日々を過ごす事を願っていると、優しい笑顔で話されていました。

（高田泰紀記）

新春のつどい開催！



四年ぶりに聚園にて開かれまして。一月十九日、三十五名が参加

おつとめの後、榎平敬子さんの乾杯の音頭の後、飲み物やお弁当をいただきながら、文化等同好会の春らしい調べを楽しみました。その後はカラオケ、舞、クイズ大会などで盛り上がりました。女声コーラスの合唱もありました。カラオケは機器を長く使っていなかったためにうまく作動せず、急遽、赤田敏隆さんにご協力いただき、違う機械でのカラオケとなりました。

今回は男性の参加が少数でしたがみなさん大変楽しまれ、最後は恒例の福引で解散となりました。

やさしい仏教講座

第24回 2月5日(まとめ)

『七高僧の教え』

正信偈の「印度西天之論家 中夏日域之高僧 顕大聖興世正意 明如来本誓応機」をみていきました。意味は「西の、天竺であるインド、中国や日本の高僧は、釈尊が世に出られた本来の意味を明らかにし、阿弥陀如来の本来の誓願は私たちのために建てられたことを、明らかにされた」です。

インドの高僧とは龍樹菩薩、天親菩薩、中国は善導大師、曇鸞大師、道綽禪師、日本は源信和尚と源空上人です。

これら七高僧のうち、親鸞聖人が実際に会って教えを受けたのは源空上人（法然）だけ。他の高僧に関しては、その著作から極楽浄土の教えを学んだのです。

ありがとう

小菊懸崖作り花壇大小二対
小菊鉢多数
入江 住谷大志さん



龍樹菩薩は仏教史上では中観派の祖として有名です。この学派は、「どんなものも実体があるようで、実際は常に移り変わっている。すべてのものには固定的な実体はなく、空である」と説きます。

また天親菩薩は、瑜伽行唯識学派の祖と言われます。「目に見えるものはすべて意識が作り出したもので実物とは異なる。だから同じ世界でも見る人によって違うものに見える」と説きます。

『葬儀にまつわる習俗、俗信』

葬儀に際しては古来から様々な慣習が行われてきました。枕だんご、旅支度、守り刀は、故人がこれから旅をするという考えから準備されるものです。真宗では旅はしません。また、水にお湯を注いでぬるくする逆さ水や、着物の襟の合わせを左右逆にするなどの逆さごとは死への恐れからされるものです。一膳飯を供えるのはこの世での最後の食事ですが、真宗ですでに極楽往生されており、必要ありません。



仏教婦人会 研修旅行に行ってきました



十月二十六日、日帰りでも島根県松江市、順光寺を参拝しました。総勢二十五名。

順光寺は浄土真宗本願寺派の寺院で、もともと天台宗の寺院だったのが一五七六年頃浄土真宗に改宗したとのこと。お内陣が浄心寺本堂の様式や雰囲気非常に良く似ており、驚きとともに親しみを感じました。現在の本堂は元禄年間間の建立で、浄心寺の現在の本堂もその数年後の建立です。

ご住職による沿革説明や、婦人会の方の活動の様子のお話をお聴きして、一同感銘を受けました。

仏具おみがき

一年間の本堂の仏具の汚れを落とす「おみがき」が、十一月七日に行われました。

この日は婦人会の方々総勢十数名で、九時より、取り外された仏具のおみがきを行いました。一つ一つの部品を流れ作業できれいに磨き、仏具も新品のような輝きを取り戻しました。昼食をお持ち帰りいただき解散となりました。



報恩講でお斎の席復活



コロナ禍のためここ三年は報恩講での「お斎」を中止にしていましたが、今年再開しました。仏教婦人会の調製による精進料理のお弁当を、法要当日正午より、聚園和室にてご講師さまとともにいただきます。

昼食は「わらく」で上品なお味の料理と松茸ご飯をいただきました。その後、松江城周辺を散策。小泉八雲記念館や地ビール館を訪れた人もいました。途中で道の駅「たかの」で買い物。新鮮で安い野菜など地産のものを、段ボール箱に一杯買いこんで、帰路につきました。秋らしい晴天に恵まれ、気持ちの良い旅行となりました。

花まつり

4/21(日)午前中

お釈迦さまの誕生をお祝いして

*甘茶をどうぞ(持ち帰り可)



初参式のごあんない

5月4日(祝) 10時より

お子さんの初めての初参りです。三に儀で、参さ七代式とせ加い。



還浄(げんじょう)

(敬称略)

北川 嗣雄

1月30日 74歳

平成二十七年に奥様が急逝されて以後、同年本山で帰敬式、平成三十年から吉浜南地区の地区委員、令和元年には門徒推進員となり、み教えを大変喜ばれてきました。

亀岡 達明

1月30日 89歳

平成十八年から二十九年まで鴨方小坂東の地区委員をしていただき、大変お世話になりました。

藤井	藤井	小山	糞谷	鎌倉	熊川	三宅	藤井	平加	水原	藤井	末金	甲斐	長安	桃木	小田	吉岡	谷水	北村	三宅	長安	久保	田村	大山	石川	山本	石原	林
宣行	俊子	實	良明	卓	恵子	寛子	トモエ	知英	良昭	雅子	仁	年子	正子	陽子	静子	展宏	恒子	香苗	萬子	安子	俊宏	義己	知一	隆治	勝	正幸	文子
2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10
84	91	78	77	81	95	63	89	92	54	89	78	91	89	71	93	52	88	90	88	104	84	69	73	75	83	89	91
生江	生江	入江	吉浜	里庄	里庄	鴨方	九番	追分	福山	殿川	岡山	孫治	美の	富岡	鴨方	大井	絵師	二番	吉浜	富岡	住吉	生江	西の	横浜	神島	鴨方	吉田

浄土真宗



教えと

そのあゆみ



私たちの宗門(18)

浄土真宗の礼拝

親鸞聖人が師と仰いだ人々は多いが、その中でもインド二人、中国三人、日本二人の合計七人を七高僧として尊敬しました。

●七高僧(しちこうそう)

親鸞聖人が浄土教について直接指導を受けたのは法然ですが、それとともにインド、中国、日本の僧たちにもその著書を通して教えを受け、浄土真宗を確立しました。

それはインドでは龍樹(150〜250頃)の『大智度論』と『十住毘婆娑論』、天親(世親、400

備中里組 慶讃法要

5/24(金)

親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年の慶讃法要が矢掛文化センターで開催されます。

午後1時から4時まで、昔ながらの節談説教や、オペラのコンサートもあります。ぜひお誘い合わせられご参加ください。申し込みは浄心寺まで。



除夜会・修正会

12/31

研修旅行のおさそい

別院めぐりをしている門徒徒会の研修旅行ですが、今年が高知別院へ、6月27日(金)に日帰り参拝。次号で募集を開始します。

有名な桂浜を訪れたり、旬のカツオのたたきを食べる予定です。トイレ付きの新型バスを利用。

ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。



『観経疏』、日本の源信(942〜1017)の『往生要集』、法然(1133〜1212)の『選択本願念仏集』などです。

親鸞聖人は『正信偈』に「印度西天の論家(高僧)、中夏(中国)、日域(日本)の高僧、大聖(釈尊)興世(出世)の正意を顕し、如来の本誓、機(人)に応ぜざることを明かすといひ、七高僧によつて阿弥陀仏の本願が私たち凡夫を救うためであることを明らかにされた」と



いっておられます。 ●聖徳太子(574〜622)は聖徳太子(574〜622)は僧侶ではありませんが、日本仏教を保護し盛んにした人であり、親鸞聖人にとっては夢告によって法然門下に入ることを勧めてくれた恩人であるので、その肖像を掲げ感謝しました。

親鸞聖人は『皇太子聖徳奉讃』に「聖徳皇のあわれみて仏智不思議の誓願に、すすめいれしめたまひてぞ、住正定聚の身となれる」と、聖徳太子のすすめで浄土門に入り、救われることのない凡夫のこの身が、阿弥陀仏の不思議な本願力によって浄土に生れることが約束される身となることのできた、とおっしゃっています。

ダーナバザー開催

4月21日(日) 10時半より(午前中)境内にてバザーを開きます。

例年通り、物品と手作りの食品などたくさんの方が並びます。どうぞお誘い合わせてお越しください。

★バザーの物品募集★

お家に眠っているバザーに出品できる品物があれば、4月15日までに浄心寺へお持ちください。中古品や衣類はご遠慮ください。



編集後記

春光うらかな候となりましたが、お健やかに過ごしてはいかがでしょうか。

昨年の報恩講、除夜会、修正会、新春のつどい等のご報告、令和六年度の行事計画、その他諸予定をお知らせする第146号をお届けいたします。

余寒厳しき折ですが春の兆しを楽しみながらご自愛ください。

(編集委員 釋賢大)